



2022年 11月14日
第72号

JR 東労組 Yokohama



JR東労組横浜地本
発行人 助川一実
編集情宣担当
ホームページ
<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



2022年度 年末手当回答に対する抗議声明

11月11日。私たちの要求3.3ヶ月+50000円に対し、会社は、2.4ヶ月+20000円の回答をした。このことに対し、組合員からは、「ふざけるな」「低すぎる」「納得できない」「赤字ではなく黒字だぞ」「黒字でこれか」「怒りをとおり越して失望感しかない」「これから会社施策に協力する気がなくなつた」「会社回答書を読んで、人間味を感じない」「会社のいう覚悟とは何なのか」「ボーナスも抑制され、これ以上、更に掛けということか」「夏のボーナスに、0.1ヶ月+20000円で納得できるわけない」など、職場では会社回答に対する不満の声が、声大げき噴出している。

それは、これまでの赤字下では会社存続の危機感から職場では組織再編・柔軟な働き方など従来を超えた施策に向き合い、黒字に向けてやれることをやろうと、あらゆることに協力し奮闘してきたこと。また生活している中で、公共料金や物価上昇に伴い、あらゆる物の値段が上がり続けていることから、生活を切り縮めて苦労していることを含んだ本部集計6000件を超える声を持って交渉してきた。

しかし会社回答書からは、組合員・社員の労働実感と生活実感に対する思いとは、相当かけ離れた冷酷な経営姿勢が現れたことにより、職場内では「今まで赤字だから頑張ってきたが黒字になってもこれか」「失望感しかない」「回答書は結果ありきでつくられていたものではないか」「回答書を見て冷酷を感じた」「そもそも経営側の意識が変わっていないのではないか」などの意見も出ている。

それは会社が交渉のなかで、確認されてきたことを回答書では変更していることが反映している。第2回交渉で「有利子負債が増えたことをもって賞与を抑制した認識はない」が、回答書では「有利子負債がすでに1兆円以上増加している状況など」に変わっていること。要求した50000円の意味を「会社がサステナブルに成長していく基盤をつくっていくため…」と意味内容を変更していること。

会社は「安心して働くことは重要なことである」と回答している。しかし現実は本当にそうなのか。一人当たりの仕事量の増加また他職との兼務または本人の意志とは無関係に異動発令を行うことによる簡易苦情処理が増加している事実は、組合員の生活に直結しているのであって、精神的病また休職さらには離職につながっている。離職について会社は「離職率が過去に比べて上がっている。辞める理由は高い意欲があるが能力を活かす場所がないから」と回答している。では在籍している組合員または社員は、能力がないというのか。「ふざけるな」と言っている。

そういう経営感覚が、業務におけるインシデントの増加また不当労働行為としてハラスマントが後を絶たない状況をつくりだしていることは、職場で働く人が実感している。鉄道における技術力を軽視し、一人当たりに対する本来とは異なる業務量の増加が安全を脅かし、ひとたびミスが起こると原因究明よりも、むしろ本人に掠り付ける姿勢。そういうことを含んで職場では、会社回答に対し「怒り」と「不満」そして「不信」が噴出しているのである。会社は「覚悟をもって最終回答」というのであれば、我々は覚悟をもって何をするのか。

これまで取り組んでいただいた組合員・社員のみなさまに感謝を申し上げるとともに、これから何をしていくのかを議論し、経営姿勢に向かっていく必要がある。組合員・社員の生活と会社の未来がかかる。この冷酷な納得感ゼロの回答に対し、私たちは組合員の拡大をもって立ち向かっていく。

2022年 11月 11日
JR 東労組 横浜地本 川崎支部
鶴見線 営業所 分会

2022年度年末手当の会社回答に対する大船支部抗議声明

11月11日、会社は申6号「年末手当等に関する申し入れ」の第3回交渉の場で「基準内賃金の2、4ヶ月分に20,000円を加えた額とする」という低額回答を行った。あまりにも組合員・社員の労働実感・生活実感とかけ離れており、到底納得のいく回答ではない。

大船支部内でも「安い」「低すぎる」「世間相場よりも低いでは無いか」「社員に柔軟な働き方を押し付けた上で手当が上がらないのは納得いかない」「まったく納得感がない」「今回の回答を見て社員のモチベーションは当然ながらない」「会社は生活実感・労働実感を言葉だけでなく成果で表せ」「これまでの努力は何だったのか」「頑張っても無駄ということ」といった怒りと失望の声が噴出している。

私たちはコロナ禍で収入が減少している中で固定費がかさむ構造的欠陥が浮き彫りとなり、急ピッチで進む会社施策に立ち向かい、変化する労働環境と過去最高の働き度のなかで安全・安定輸送を確保し黒字化を目指すための努力を続けてきた。車両職場ではコストカットのために廻車になる車両から使える部品を外して再利用したり、運輸職場では駅業務の兼務・連携やジョブローテーション、ライフサイクルなどを会社施策を担い、営業職場ではお客様の増加を身銘で感じているが会社の方針で窓口が閉鎖されたために長蛇の列となり丁寧な接客と券売速度と相する物を求められて苦惱したりと、それぞれの系統で悩みながらやれることを行い努力してきた。だからこそ、回答前から「コロナ前で儲かっていた時に上げていれば納得感はあると思うが、少なくなった時だけ下げる。というのは、会社の仕打ちがいけない。」「会社の収入は上がっているんだから社員に還元しろ」「収入は戻りつつある賃金、ボーナスも戻せ」「現場の努力に応えてもらいたい」などの声が出了るのだと考えます。

これだけ職場で努力をした上で、物価高騰が急速に進むにもかかわらず定期昇給のカットや期末手当の大幅カットで収入を減らされて生きるために必死の努力をしている。それにもかかわらず今回のような怒りと失望しかない低額回答はありえない。組合員・社員の並々ならぬ努力に報い、低額回答を撤回し、満額回答をください。

JR 東労組は大船支部だけでなく東日本で働く仲間6000件の声を団体交渉の場で訴えてきた。それも関わらず回答書では「目標に達していない」「先行き不透明」というスタンスを維持するだけでなく、「これまで以上に積極果敢に増収とコストダウンに向けた様々な取組みを進めていく必要があります」とさらなる無理を強いることを望んでいる。現在の会社姿勢からは社員・組合員には目もくれず、利益しか見ていないことが明らかである。なぜなら東日本の社員の大半を占めている組合に入っていない人たちはどうにでも出来ると考えているからである。そのような経営姿勢に立ち向かうには未加入者がJR東労組に結集し声を上げなければ賃金と労働条件の改善は勝ち取れない。

今こそJR東労組に結集し共に團結して声を上げ会社の経営姿勢に立ち向かおう！

以上、赤字とコロナ禍を乗り越えようと努力してきた組合員の思いを踏みにじる会社の低額回答を許さず、満額回答を求める抗議声明とする。

2022年 11月 14日
東日本旅客鉄道労働組合
大 船 支 部

各機関会社回答に対する抗議声明

2022年度年末手当の会社回答に対する抗議声明

会社は11月11日、申6号「年末手当に関する申入れ」に対し「基準内賃金の2.4ヶ月分に2万円を加えた額とする」という回答を行なった、これは私たちの要求3.3ヶ月+5万円の要求額・内容共に程遠いものである。この回答は、コロナ禍においても職場で奮闘し続ける現場の声に応えないものであり会社の回答は到底納得できるものではない、横浜支部は最大限の怒りを持って抗議する。

この間支部情報でも示したとおり、期末手当について現場の力にて黒字化を達成した事から組合員・社員より多くの期待の声が寄せられていた。しかし会社の回答はその期待よりも大幅に低いものであり「どこまで働くものを痛めつければいいのか」「東海にも負けており私たちの現場の苦労が分かっていない経営陣に怒りしかない」「これだけだと結局ローン返済で終りだ…」など多くの組合員・社員から怒りと失望の声が上がっている。

今現場では矢継ぎ早に繰り出される施策により安全・健康・ゆとりが脅かされ続けている。営業職場では要員不足による教育時間の減少により安全が特に脅かされており、その一端として来宮の退避遅延という命に関わりかねない事象が発生した。運転職場では要員不足による休日出勤の慢性化やジョブローテーション施策によりいつ異動になるかという不安の中業務を続けている。また工務・支社職場では職場改革・再編により働き方が大きく変わり、業務量の増加を招いている。

どれも会社が「変革2027」を発表し様々な変化をもたらした事により影響であり、組合員・社員の並々ならぬ努力により乗り越えてきた。今出されている組合員・社員の声はその中でも施策に向き合い、赤字解消の為に我慢しながら奮闘をし続けてきた故の怒りの声であり、現場の我慢は限界である！会社はこの声に真摯に向き合わなければならぬ。

この間、組合員・社員併せ6000件以上の声を集め訴えてきた。横浜支部の各職場でも多くの声を頂き、改めて協力をしてくれた職場の仲間に感謝を申し上げる。しかし同時に我々の組織力の低下が招いた事による影響も否めなく、現状の不満をぶつけるだけでは変わらないということも見えてきた。

やはり会社に現実を突きつけるためには労働者の結集が必要であり、職場からの声と怒りが必要だ。職場現実を基に会社と交渉ができるのは労働組合しかなく、それができるのは我々JR東労組しかない。

改めてJR東労組に結集し、不満を組織の思いに高め、賃金及び労働条件の向上を勝ち取ろうではないか！我々は労働者として常に諦めず共に声を上げ、会社の経営姿勢に立ち向かう！

改めて職場で奮闘し続ける現場の声を翼にした今回の低額回答を許さず、満額回答を改めて求める抗議声明とする。

2022年 11月 13日

東日本旅客鉄道労働組合横浜地方本部横浜支部

2022年度年末手当会社回答に対する小田原支部見解

11月11日会社より年末手当に対する回答が示された。その内容は2.4ヶ月+2万円であり、私たちの要求3.3ヶ月+5万円とは程遠い内容であった。この回答に怒りを持って抗議する。

2020年より始まった新型コロナウィルス感染症対策を始め、現場で会社施策を担いながら私たちは会社の黒字化に向き合い努力を重ねてきた結果、2023年3月期第2四半期決算は連結・単体共に増収増益、3期振りの黒字転換となった。黒字化に尽力した組合員・社員に対する回答ではない。

この回答を受け現場からは会社に対する怒り・不満・失望の声が多く出されている。「正直がっかりした、足りない」「一律の内容が気に入らない、会社が与えてやっている感が出されている」「社員を駒としか思っていない会社に成り下がった」「低い！変化の大きい施策、コロナ対策さまざま頑張ってきて回答がこれではモチベーションが上がらない」「物価も上がっている、毎月の給与では生活厳しい。この回答ではその補填にならない」「酷い回答だ！覚悟とあるが何の覚悟なのか問いたい」「この回答ではモチベーション上がらない」「会社を守ることしか考えられていない、社員・家族の事など考えられていない」「役員報酬10%カットもその時だけのパフォーマンス」「会社を辞めなければ辞めろと遠回しに言わわれているようだ」「この回答ではみんな納得できません」「この回答は会社になめられている」「行先不透明いつまで言い続けるのか？社員を馬鹿にしている」等ここに書ききれない会社に対する声が上がっている。

出されている声から見えるものは、赤字から黒字に転換するために日々仕事に追われる中さまざま努力をしている組合員・社員に対して会社の利益のためにもっと働くという会社の一方的な主張と、組合員・社員・家族の生活は触れていない、考えられていないということだ。会社回答には施策を担い働く現場の「労働実感」と急激な物価上昇から起きる生活費圧迫による「生活実感」が何も込められていない。全ては会社経営陣の考えが一方的に書かれているだけだ。組合員・社員を顧みない企業は発展することが出来るのか？出来ないだろう！「2022年度上半期ブラックな働き方への不満が多い業種ランキング」で鉄道業が一位を受賞した。不満の理由に「基本給が低い」「賞与の半減による生活苦」「長い拘束時間」等が挙げられている。賃金の低さと賞与の半減はJR東日本にも当てはまる。世界全体で労働人口減少が進む中、更なる人材流失・モチベーション低下に拍車が掛かってしまう。そうなってしまえばJR東日本の安全は守られるのか？働く私たちの命は守れるのだろうか？会社施策を進めるだけでなく鉄道の安全・人材確保のため組合員・社員の生活のため現場努力に応える真摯な会社姿勢を求める抗議する。

組合員・社員のみなさん、このような現場を顧みない会社経営の姿勢で私たちの生活・命は守られますか？今も進められている効率化施策で超勤・休日出勤は増えていますか？休日は心身ともに休めていますか？このような時代・社会だからこそ労働者の利益を守るために、東労組の旗のもとに結集し立ち向かおう！

2022年 11月 12日
JR 東労組横浜地本
小田原支部